

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100785		
法人名	医療法人誠仁会		
事業所名	グループホームわかたけ		
所在地	〒038-3194 青森県つがる市木造若竹5		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年10月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者がゆったり、楽しく、生き生きとした生活が送れるように取り組んでいる。 ・誕生会は特別メニューを提供、又、便秘がちの人には、ヨーグルトを摂取し、排便調整している。 ・摂食前には、嚥下体操を行い、嚥下防止に努めている。 ・おやつ前には尾野病院リハビリ科より教えて頂いた下肢筋力低下防止の体操を行い、転倒防止に努めている。 ・設置母体が病院であるため家族に安心感がある。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ベテラン職員が多く配置され、きめ細やかな配慮が伺える。特に接遇に関する研修を実践され、日々振り返りの時間を設け、入居者の尊厳の保持及び理念の再確認を行い真摯にケアに取り組んでいる姿勢がみられた。又、母体が医療法人であること及び、重度化や終末期の際のあり方の方針がわかりやすく説明されているので、入居者、家族に安心感がある。また、職員も安心して日々のケアにあたっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	2箇所に理念を掲示し、日々反映されるようにしている。月1回のホームカンファレンスで、実践に向けて話し合い確認している。	理念は、開設以来のもので、明るく広いリビング、事務室内に掲示されている。毎月1回のカンファレンスで話し合い、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時、地域の方にボランティアで来ていただき、えんじゅの里に慰問があった時は招待され一緒に見学したりと、地域住民と交流を持つよう努めている。	地域の「馬市」、「津軽伝統芸能保存フェスタ」を見たり、敬老会には、地域の交通安全母の会の方々の訪問がある。隣接するえんじゅの里にボランティア等の訪問があるときは、一緒に見たり地域住民との交流をもつようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学は受け入れており、地域の方には気軽に立ち寄ってもらえるよう、電話等問い合わせの時には対応している。見学された方には認知症の人の理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には家族や市の担当者も参加しており、意見が交換されている。そこでの意見は職員に伝えサービス向上に活かしている。	会議では、転倒等の検討事項や懸案事項について他のグループホームの管理者も入って意見交換がなされている。結果は職員に伝達されサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の方が直接手紙を施設に持参したり運営推進会議の時は、普段疑問に思っている事等聞いたり、市の担当者と連絡を取り合っている。	市役所の担当者は随時情報提供のため事業所を訪問しており、運営推進会議に出席の際は事業所の取り組みを伝え、協力関係の構築に積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが作成されており、ホームの勉強会の中にも組み入れ、職員は理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、対応方法を明確にしている。これに対し、職員も理解を深めており身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、事業所内での虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、全職員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書に沿って説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、なんでも言ってもらえるような雰囲気作りに留意しており、公衆電話の横に御意見箱を置き、意見や要望がある時は聞いている。又、苦情の受けつけは当事業所以外の場所を3ヶ月に1回の便りに書いており定期的に伝えている。	面会時には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。意見箱を置いたり、行事等のある際など家族には、なんでも言ってもらえるように取り組み、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームカンファレンスや勉強会等、職員の意見や提案を随時聞くように心掛けており、反映させている。	管理者は、月1回のカンファレンス、勉強会等で要望、意見、提案を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内の親睦会の行事への積極的な参加を促しており、気分転換を図っている。勤務の希望は出来るだけ受け入れ、相談事も随時受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の勉強会や法人内外の研修会に順次参加させている。資料はいつでも閲覧できるようにしており、報告機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会(研修会)はあり、意見交換や経験をケアに活かす努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みの相談を受ける時に、本人の困っていること等を聞く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの相談を受ける時に、家族や担当のケアマネージャーから情報収集を行い、家族の困っていること等聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーと連絡をとり、意見交換を行い、支援の方向性を保っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしながら、ゆったりと穏やかな生活が出来るよう場面作りや声掛けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、外出時の様子の写真を見ていただいたり、グループホームでの様子を話したりしている。又、家族の行事への参加を促しており、参加された時は一緒に楽しんでいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔なじみの方が面会に来た時は、次回の面会につながるように声掛けをしている。外来受診時に顔見知りの方との談笑もみられている。いつでも施設の方に立ち寄りをすすめている。	家族や知人に対し、いつでも自由に面会できるように声掛けしている。そして、近隣住民の顔見知り、外来受診時の顔見知りを把握しており関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はホールに居ることが多く、孤立しないよう他利用者の間に入り、会話をしたり、利用者同士楽しく時間を過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が当法人の病院へ入院した場合、病室を訪問し経過を把握。家族と会った時は、その後の様子を聞いたり関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子と会話から意向を把握し、無理強いないよう努めている。入浴の場合は、体調がすぐれない等の訴えがある時は無理にすすめないようにしている。	センター方式により情報を把握しているほか、日頃の会話等から本人の思い、意向を汲み取るようにしている。困難な場合は、言葉だけでなくしぐさや態度から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャーから情報を基にセンター方式を取り入れて経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別により申し送りにより、情報を交換。必要であれば話し合い、心身の状態有する等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の様子や会話から察知し、本人本位の介護計画に視点を心掛けている。又、家族の面会時や介護計画配布時に具体的な意見を聞いて介護計画に生かしている。異常な行動があった時は家族の協力を得て、ケアプランを作成したりしている。	本人や、家族の意向が盛り込まれ、本人本位の介護計画を作成している。異常が認められるときは、本人、家族の意向を反映し現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やいつも違う事項等を個別記録に記入し、申し送りで介護情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・遠足の時の乗り物を手配する時は、法人と連携を取りながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	設置母体と一緒に諸行事を行い、地域の方と協力し、支援している。市の催し物を見学に行ったり、他のグループホームの行事へ招待されたり、協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居申し込み時や契約時に家族と受診の支援方法を決定し対応している。	入居時に、本人及び家族と受診の支援方法について話し合い、同法人の病院や協力医療機関で受診している。他の病院を受診するときは家族の付き添いをお願いしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の申し送りを行い、情報を共有し、個々の利用者が適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病室訪問したり、病棟責任者と連絡を密に取り、情報交換に努めている。面会時家族と情報交換しながら関わっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や入居後も家族との意向を聞き、方針を共有し、同意書を作成している。状態に変化があった時は、医師の指示を仰ぎながら家族や職員と検討している。緊急時には対応可能な場合協力病院を確保している。	入居時に、本人、家族の意向を聞き、方針を共有している。状態に変化があった時は医師の指示を得ながら医師、職員が方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行い、事故発生時の初期対応を確認している。夜間急変時に備え体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で訓練を行い、駆けつける体制を整えている。独自に利用者参加の避難訓練を行っている。地震の訓練もっており非常用の食料や備品を準備している。	法人全体の災害訓練が2回、独自に昼夜を想定して地震火災訓練を行っている。近隣の住民が参加し誘導されている。備蓄は、水、缶詰、おかゆ、ガスコンロ、ポンペ等で災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の誇りやプライバシーを損ねないよう言葉掛けや対応に配慮している。記録にはイニシャルを使う等個人情報に配慮している。個人情報利用同意書を作成している。	高齢者に敬意をはらい、大きな声を出さないように職員同士が声掛けしてプライバシーの保護、接遇に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表出しやすいように職員側から押し付けたりせず、態度や声掛けに十分注意し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかに一日の流れは決まっているが、一人一人の体調に配慮しながら、入居者に何をしたいかどうしたらいいのか、本人の気持ちを尊重した支援に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理容師の出入りがあり、各々好みの髪型を保っている。又、入浴日は自分で入浴後の衣服が準備できる方は行ってほしい、本人の好きな衣服の希望を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好を把握している。食べたいものを聞いてメニューに取り入れている。職員は入居者と一緒に準備(配膳)、食事の後片付けをして楽しい雰囲気づくりに心掛けている。誕生日や行事等に特別メニューを作っている。天気の良い日は外で食事をしたり気分転換を図っている。	利用者の嗜好を把握し、食べたい物を聞いてメニューに取り入れている。調理は手作りで作り、職員も一緒に食事をしている。行事や誕生日には特別メニューを作り、天気の良い日は外で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量をチェックし情報を共有している食事以外1日2回、午前午後とお茶や牛乳で水分補給、夏は入浴後、麦茶、ポカリスエットを飲んでいただき脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、緑茶によるうがいを行っている。毎食後うがいや義歯洗浄の声掛けをしている。起床時は、就寝時には見守りや介助で口腔の清潔に努めている。毎日夕食後、ポリドントにつけ、義歯の清潔保持に努めている。又、自分で行える方は自分でやってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを理解。早め声掛けし、トイレでの排泄に心掛けている。夜間も個々の時間に合わせたトイレ誘導又はポータブルトイレへの移動による排泄を心掛けている。	排泄パターンを把握し、早め声掛けとトイレでの排泄を心掛けている。本人の状況を確認しながらポータブルトイレへ変更するなど自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた乳製品(ヤクルト・牛乳)を飲ませたり、便秘がちな利用者には昼夕食後、自家製ヨーグルトを摂取していただいている。排泄表により、状況を把握し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回、曜日は決めて行っている。拒否する時は無理せず、足浴や清拭で対応している。拒否する人は、仲の良い方と一緒に誘ったり、タイミングを見て声かけしたり入浴を楽しめるよう心掛けている。	週3回(月、水、金)入浴日を決めている。入浴を好まない人には、足浴、清拭をしているが仲の良い人との入浴を試みたり、タイミングをみて入浴を楽しめるよう一人ひとりに応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。入浴後は疲労を考え一人ひとりの体調や表情を観察し、一旦ベッドに休んでいただきゆっくり休息が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのファイルに薬の副作用・用法・用量についての調剤表があり、いつでも確認できるようにしている。薬の変更があれば、申し送りノート・ファイルにも記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見つけ、役割や楽しみごとを作り出す支援をしている。カーテンの開閉、新聞の取り込み、配膳、下善、後片づけ、ゴミ袋たたみ、チラシの箱作り、牛乳パック切等出来ることをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日、外の景色を眺め散歩を楽しみながら受診したり、家族にも外出等協力をお願いしている。遠くに出かける時は、あらかじめ計画を立て職員が下見に行ってから外出しており、ショッピングセンター等へも立ち寄っている。	外の空気に触れるように天気の良い日は周辺の散歩に出掛けている。地域の行事にも家族の協力を得て出掛けている。	日常的な外出支援として、利用者が外に出かけ、スーパー等で買い物を楽しむ機会や外出する機会を多く持てるように期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族等と相談しながら一人ひとりの能力に応じ小銭を所持し、金銭管理を支援している。買い物の支払いには、職員が付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも使用できるようになっており、利用者の希望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の飾りつけは季節感を取り入れている。窓からは外の景色や庭木・鳥の姿が見えている。テレビの音量や職員の声掛け時の声量に気をつけ不快感を与えないようにしている。	居間と食堂が一体化した部屋は、明るく、広々としている。季節の飾り付けや適度の床暖房でそれぞれソファ椅子に座りゆったりと過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールはいつでも自由に利用できる。食後も食堂に座って気の合う利用者同士会話したり過ごしている。電話の横にも椅子を置き、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やベッド周りに写真や好みのもので飾っている。クローゼットは大きくゆとりがあり、使い慣れた物を置いている。	居室は、清潔で整理整頓されている。使い慣れたものの多くはクローゼットに収納されている。	転倒等の安全対策を考慮しつつ、入居者が居心地の良い環境の中で居られるよう、使い慣れたものや好みのものを配置されるが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーで全ての居室に洗面台があり、自立した生活が出来るよう工夫している。夜間居室のポータブルトイレ設置場所も個々に工夫している。迷いや混乱がないよう一人ひとりに合わせた目印を付ける等工夫したり見守り、声掛け等を行っている。		